

榛名山 硯岩下ボルダー

2016.11.8 rctK

10月下旬、ようやく秋の艶深まり、帰省の途中で登山と紅葉狩を楽しもうと思い、紅葉が最盛期と思われる榛名山に寄ることにする。

思い起こせば、昔、硯岩にクライミングに行ったところ、状態が悪くて登れず、黒岩に転進したことがあった。久しぶりにトポ集を開いてみたところ、硯岩のアプローチ図の分岐点に、当時気にも留めていなかったのが全く記憶にないが、ボルダーの表示がある。最近榛名山のボルダーが注目されているが、ここではないのでどのようなボルダーか分からないため、今回登山ついでにちょっと遊べるならと思い寄ってみることにする。



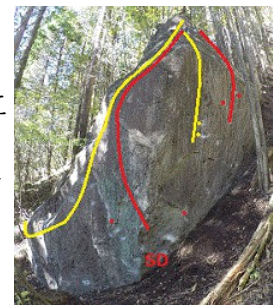
展望と紅葉を期待した榛名富士は紅葉には少し早く、ゴンドラリフトは仕方がないとしても、山頂の富士山神社周辺のゴミの散乱と神社前の観光用双眼鏡には興ざめしてしまい、早々に下山し、気を取り直して硯岩のボルダーに向かう。

掃部ヶ岳登山口より暫く登ると、右の林の中に苔だらけの少し大きなスラブ状ボルダーが見える。しかし道のようなものは無く、鞍部あたりの近くにボルダーがあるのだらうと思い、さらに登って鞍部に着く。しかし、ボルダーらしきものは見当たらず、仕方なく硯岩下の踏み跡を行くと右下の藪の中にボルダーが見える。”あれか！”と思い、全く踏み跡のない斜面を10m程下ると確かにボルダーがあった。しかし、わざわざここまで来て登るほどのボルダーでもないのだが・・・と持っているうちに、ここで初めて登ってくる途中の苔だらけのスラブが例のボルダーであることに気が付く。最近硯岩に登りに行くクライマーが殆どいないので、踏み跡が消えてしまっていたのだ。

●A ボルダー

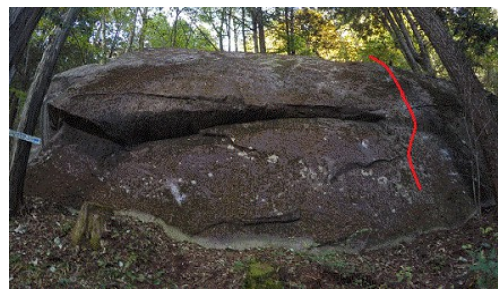
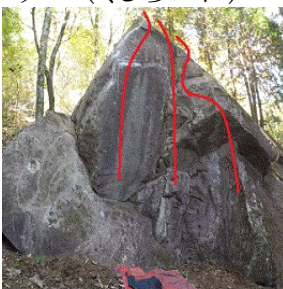
このボルダーは5m程だが、課題は3m程。下のスラブボルダーに下る前にせっかくだらうと見つけたのでちょっと遊んでみる。

左のスラブ下のガバから右にトラヴァースして、カンテ状に登るのが長くて面白い。右の赤のラインは左手はタテホールド、右手は小さな穴からスタート。その左の黄ラインはタテホールドのみでLBで登る。



●B ボルダー (くじらいわ)

A ボルダーから、岩峰の横を下り、さらに右下



に降りていくと、登ってくる途中にあった5~6mほどのBボルダーに着く。時間的には5分とかからない。側の木には、”くじらいわ”の標識が取り付けられている。ちょっと藁を払い、落とせるところだけ苔を落としてトライしてみる。

左の面白そうに見える前傾フェイスからカンテの課題は、見た目ほど難しくなく、あっさりクリアー。

次に右端のハングにトライ。小さなハングだがそこそこ面白い。

さらに苔々のスラブの中央辺りをトライしようとするが、ロープを持参していなかったので予めきれいにすることもできず、ブラシをぶら下げながら下から挑戦してみるが、あまりにも苔が多くあっさり敗退。結局右の木の側のラインを苔を落としながら登って終わりとする。中央辺りは苔を落とせば可能性はありそうである。